

町並み保存地区周辺地区 景観舗装整備方針について

整備方針検討資料

目次

1.景観舗装整備方針の検討	p.01
2.現在の舗装整備状況	p.02
3.景観舗装の工法比較	p.04
4.舗装配置計画（案）	p.06
5.整備イメージ比較	p.08
6.住民意見	p.18
7.今後のスケジュール	p.20

1. 景観舗装整備方針の検討

◇上位計画や利用状況、街路の整備状況などを踏まえ、現状と課題を整理し、景観舗装の整備方針を検討する。

現状の整理

町並み 保存地区	上位計画等による位置付け <ul style="list-style-type: none"> ● “竹原らしさ”を継承し、生活と伝統が融合した歴史的景観の維持・向上を目指します。（景観計画） ● 住民が誇る「街歩き観光地」まちあるきを楽しめる、満足度の高い観光地をめざす。（観光振興計画） 	現在の舗装の整備状況 <ul style="list-style-type: none"> ● 調査報告書（H2.3）の考え方に基づいて整備されており、御影石と黒レンガを組み合わせた舗装が施されている。 ● 一部区間においてコンクリート舗装やアスファルト舗装がある。 	
	法規制等 <ul style="list-style-type: none"> ● 建築物や工作物、屋外広告物等の形態や色彩に関する規制基準が定められている。（竹原市景観条例） 		街路状況 <ul style="list-style-type: none"> ● 御影石や黒レンガの亀裂、ひび割れ、ぐらつきや破損がみられる。さらに、ぐらつきにより車両通行時に音が発生する。 ● 埋設物の補修工事に伴う舗装復旧にアスファルトが使用されているため、景観性や統一感が損なわれており、路面の凹凸の原因になっている。 ● 雨天時に御影石や黒レンガ舗装が滑りやすくなる。
	市民意見 <ul style="list-style-type: none"> ● 良好な景観を形成する上で重点的に取り組む地区・地域として「たけはら町並み保存地区周辺」が上位にあり、市民意見としてお気に入りの景観や未来の子供たちに残したい景観に挙げられている。 		SNS分析 <ul style="list-style-type: none"> ● 「たけはら町並み保存地区」のクチコミ写真投稿数 ● Googleマップのクチコミでは、「本町通り」の投稿写真が最も多く、次に「神明掛町通り」の写真も多数見受けられる。
	町並み保存地区の利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ● 年間を通して市内外から多くの観光客が訪れており、重要な観光資源となっている。 ● 「たけはら町並み雑めぐり」「たけはら竹祭り」、「たけはら憧憬の路」など、歴史的な町並みを利用したイベントが実施されている。 		関連事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 令和7度～9年度にかけて、下水道工事・水道工事を予定している。 ● 下水道・水道工事の掘削に伴う舗装復旧は、アスファルト舗装での仮復旧までとしており、本復旧は令和9年度の実施を予定している。

課題の抽出

周辺景観との調和

- 市民が残したいと思う現存する歴史的な町並み（御影石と黒レンガによる景観）の継承
- 景観舗装部における工事補修跡の修復等による歴史的な町並みとの調和
- 観光客利用やSNS投稿などを踏まえ、整備の優先度を考慮

劣化・破損等の修復

- 石畳舗装やレンガ舗装の亀裂、ひび割れ、変形や破損箇所の修復
- 再整備にかかる初期費用だけでなく長期的な修繕方法・費用を考慮

関連事業との連携・配慮

- 下水道工事・水道工事の工事範囲や施工方法、工事スケジュール等との整合
- 沿道住民の生活やイベント開催時期に配慮した施工方法・工事スケジュールの検討

景観舗装整備の方針

方針①

歴史ある町並みと調和した街路の整備を目指し、現在の竹原らしい景観を継承する。また、関連事業による舗装工事を契機として、現在の歴史的な建物の立地状況や、住民・観光客等の利用状況を踏まえ、必要に応じて景観舗装（水路を含む）の考え方を見直す。

方針②

劣化・破損箇所にあたり、住民の生活や観光客の利用に配慮した耐久性・安全性等を考慮するとともに、舗装の再整備・維持修繕に係るコストの縮減を図る。

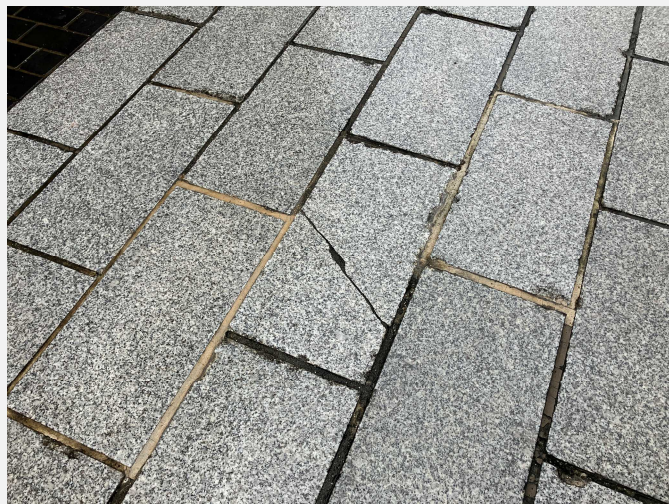
方針③

関連事業を考慮しつつ、舗装の改修が必要な範囲を検討するとともに、施工方法・工事スケジュールは、沿道住民の生活やイベント開催時期に配慮する。

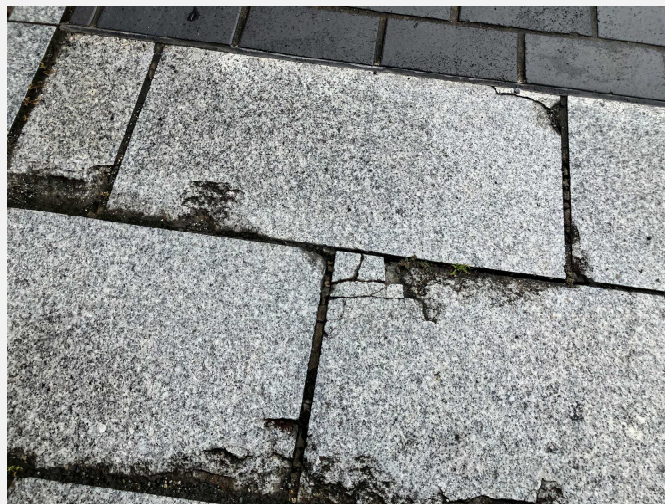
◇現状の御影石および黒レンガの主な劣化および破損状況は以下のとおり。

御影石

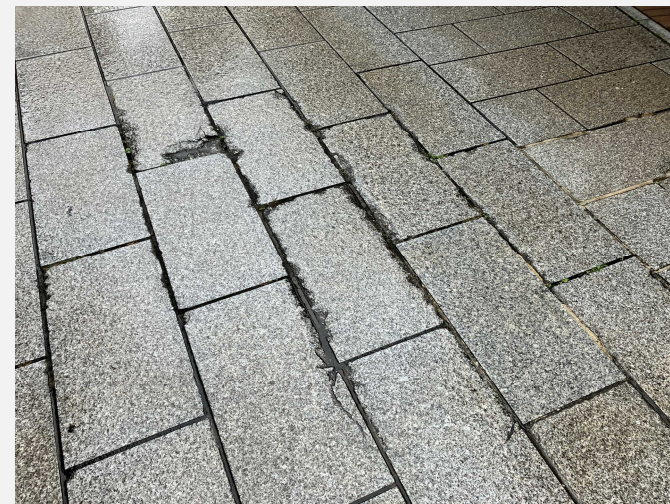
ひび割れ



ひび割れ



摩耗・剥離



黒レンガ

ひび割れ・摩耗



ひび割れ・摩耗









ぐらつき



- ◇本業務の対象範囲及び現況の舗装種別を示す。
- ◇**主要な観光ルート**である本町通りや中ノ小路、町並み保存センター前庭等は**御影石や黒レンガによる美装化**が施されている。一方、**主要な観光ルートではない路地等は、アスファルト舗装やコンクリート舗装**が用いられている。



- ◇現在の町並み保存地区は、調査報告書(H2.3)において検討された整備イメージに従い、御影石舗装や黒レンガ舗装を使用した景観が形成されている。
- ◇一方で、町並みが形成された江戸時代は現在のような舗装ではなく、土系による街路によって町並みが形成されていたことが想定され、当時の雰囲気再現することが望ましいとの住民要望も寄せられている。
- ◇このため、調査報告書(H2.3)において検討された御影石風舗装やレンガ風(黒)舗装による景観イメージと、江戸時代の雰囲気を復元するための真砂土系舗装による景観イメージの比較を行い、各イメージに沿った工法を比較する。

	＜御影石舗装や黒レンガ舗装による景観イメージ＞				＜真砂土系舗装による景観イメージ＞	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 御影石と黒レンガの対比が特徴的で、竹原らしい景観をとなっている。 ✓ 御影石やレンガを模した舗装として、インターロッキングブロックのほか、アスファルト系舗装に目地切りや型押しを施す工法がある。 				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 町並みが形成された江戸時代の雰囲気を復元できるが、現在の竹原らしい景観が失われる。 ✓ 真砂土を模した舗装として、天然の砂利等を用いた自然色アスファルト舗装工法がある。 	
工法(例)	御影石・黒レンガ舗装 (現況復旧)	インターロッキング ブロック舗装	石畳風半たわみ舗装 (目地切り)	型押しアスファルト 舗装(カラー材塗布)	真砂土舗装	自然色アスファルト 舗装
整備イメージ				 <small>試験施工実施部 (竹原市歴史民俗資料館前)</small>	 <small>引用：下郷町HP</small>	 <small>引用：美馬市HP</small>
経済性	▲ 他の景観舗装と比較して最も高価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価	● 御影石や黒レンガと比較して安価
備考	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 御影石は再利用可能 ✓ 黒レンガは損傷が大きいいため新材 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大型車両通行不可 			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 車両通行不可 	
総評	<ul style="list-style-type: none"> ● 御影石や黒レンガ舗装により、現在の竹原らしい景観を継承することができる。 ● 御影石や黒レンガが持つ落ち着いた色調と重厚感を活かすことができる。 ▲ 御影石・黒レンガ舗装は雨天時に滑りやすく、経年劣化により路面のぐらつきが発生する場合がある。 ● 御影石や黒レンガを模したインターロッキングブロックや石畳風半たわみ舗装、型押しアスファルト舗装は、カラーや形、大きさなどを選択でき、現在の景観に似た雰囲気を保つことができる。 ● 御影石や黒レンガを模したインターロッキングブロックや石畳風半たわみ舗装、型押しアスファルト舗装は、路面のぐらつきや雨天時の滑りの対策が可能。 				<ul style="list-style-type: none"> ▲ 町並みが形成された江戸時代の雰囲気を復元できるが、現在の竹原らしい景観とは大きく異なる。 ▲ 真砂土舗装は車両通行不可。 ▲ 真砂土舗装は直射日光や雨風の影響で劣化しやすく、ほこりが立ちやすい。 ● 自然色アスファルト舗装は通常のアスファルトと同様に、雨天時に滑りにくい。 	

代表路線比較

<御影石舗装や黒レンガ舗装による景観イメージ>

<真砂土系舗装による景観イメージ>

比較①
本町通り



比較②
主要な
観光ルート



備考

※画像は現況写真

4.舗装配置計画（案） | 整備パターン比較

◇前ページの工法比較を基に、以下の5案の整備パターンを比較する。

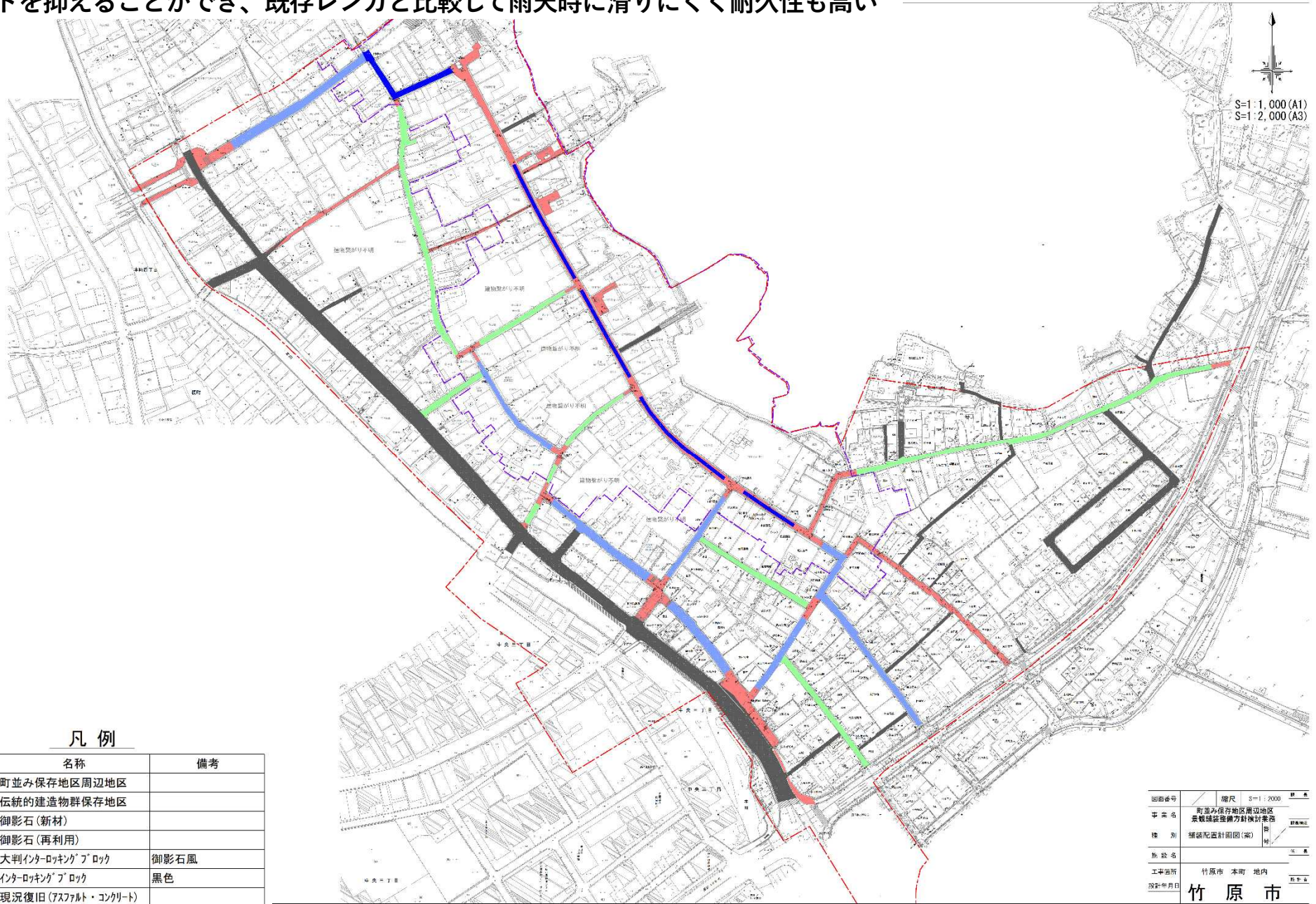
◇整備パターンを比較する際の工法選定条件は以下の通り。

- 石畳風半たわみ性舗装は、施工の難しさから交通開放に期間を要するほか、供用後の部分補修が高額となるため、整備パターン比較から除外する。
- 型押しアスファルト舗装は、カラー材の経年劣化により汚れ等が目立つだけでなく、供用後の部分補修跡が目立つため、整備パターン比較から除外する。
- 真砂土舗装は車両通行や供用後のメンテナンスに課題が残るため、整備パターン比較から除外する。
- 景観舗装ではないものの、概算工事費の比較するため通常のアスファルトを整備パターン比較に追加する。

	案1	案2	案3	案4	案5
特徴	既存の御影石・黒レンガを新材で復旧した案	御影石・黒レンガに見た目が近いインターロッキングブロックを用いた案	可能な範囲で御影石を再利 _用 しつつ、新材の御影石・インターロッキングブロックを用いた案	真砂土を模した自然色アスファルトを用いた案	通常のアスファルトを用いた案
概算事業費	約6.38億円	約3.65億円	約3.57億円	約2.43億円	約1.21億円
総評	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いた色味や重厚感を活かし現在の竹原らしい景観を継承することができる ▲御影石・レンガが高価で最もコストが高い ▲レンガの耐久性や雨天時の滑りやすさに課題が残る 	<ul style="list-style-type: none"> ●現況に近い景観を演出できる ●御影石・黒レンガを使用しないためコストを抑えることができる ●既存レンガと比較して雨天時に滑りにくく、耐久性も高い 	<ul style="list-style-type: none"> ●現況のまま、もしくは現況に近い景観を演出できる ●主要な路線に新材・再利用品の御影石を用いつつ、他の路線にはインターロッキングブロック(大判サイズ含む)を用いることでコストを抑えることができる ●既存レンガと比較して雨天時に滑りにくく、耐久性も高い 	<ul style="list-style-type: none"> ▲町並みが形成された江戸時代の雰囲気をも復元できるが、現在の竹原らしい景観とは大きく雰囲気が異なる ●各種景観舗装の中では最もコストが安価 ●雨天時の滑りやすさ、耐久性は通常のアスファルトと同等 ▲経年による色あせや表面が白っぽく劣化することがある 	<ul style="list-style-type: none"> ×景観舗装ではないため景観性が損なわれる ●各種景観舗装と比較して最もコストが安価
LCC			約1.59億円／30年	約2.85億円／30年	

◇現時点の舗装配置計画図 (案3を採用) を以下に示す。

- 可能な範囲で既存の御影石を再利用しつつ、新材の御影石・インターロッキングブロックを用いることで、現在のまま、もしくは現在に近い景観を演出できる。
- 主要な路線に新材・再利用品の御影石を用いつつ、他の路線にはインターロッキングブロック(大判サイズ含む)を用いることでコストを抑えることができ、既存レンガと比較して雨天時に滑りにくく耐久性も高い



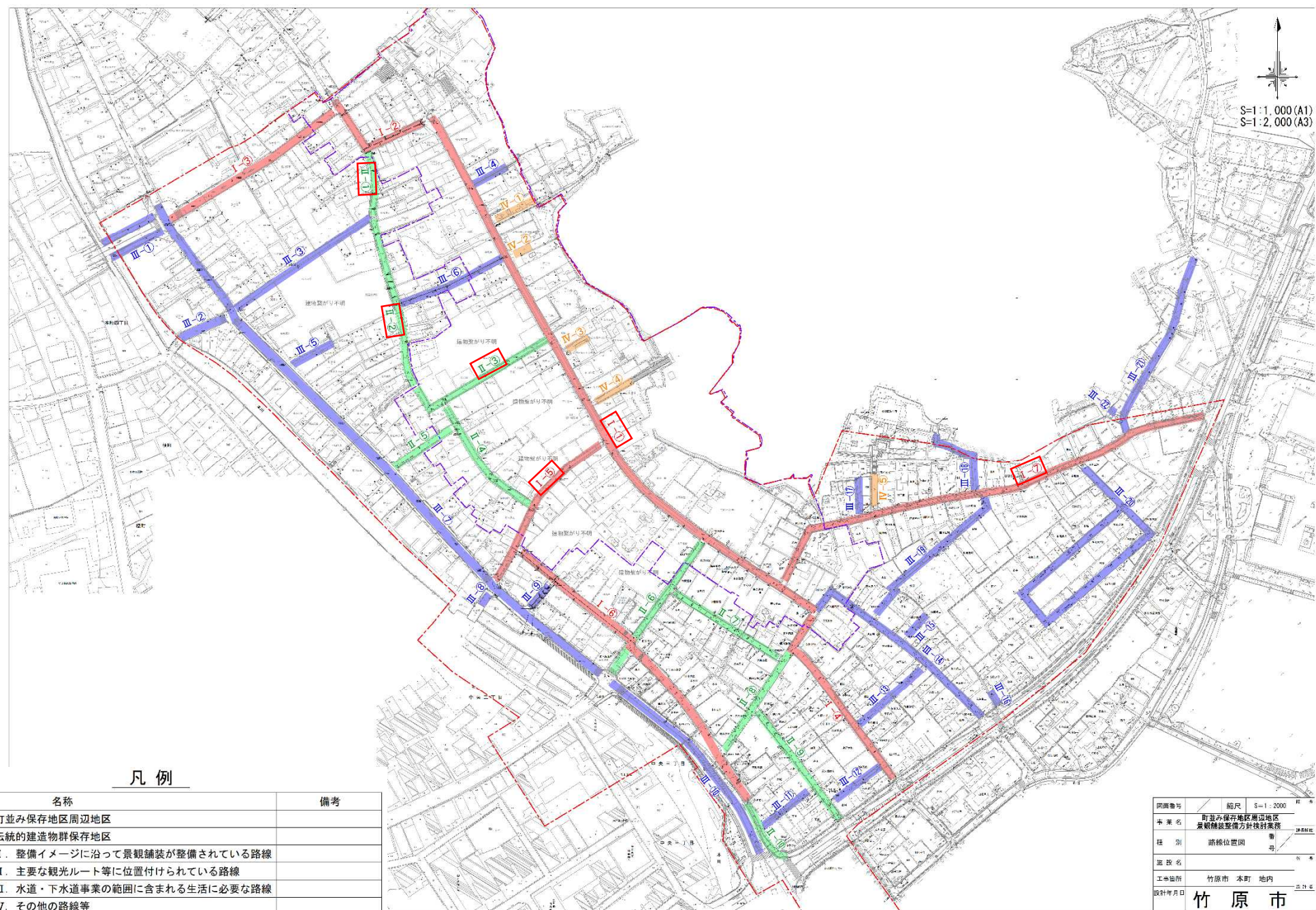
凡例

記号	名称	備考
	町並み保存地区周辺地区	
	伝統的建造物群保存地区	
	御影石(新材)	
	御影石(再利用)	
	大判インターロッキングブロック	御影石風
	インターロッキングブロック	黒色
	現況復旧(アスファルト・コンクリート)	

図面番号	縮尺	S=1:2000	図名
事業名	町並み保存地区周辺地区 景観舗装整備方針検討案第		
種別	舗装配置計画図(案)		
施設名	竹原市 本町 地内		
工事箇所	竹原市 本町 地内		
設計年月日	2024.05.15		

竹原市

- ◇路線位置図を以下に示す。
- ◇使用部材が御影石・黒レンガからインターロッキングブロックに変わる主な路線（Ⅰ-1,Ⅰ-5,Ⅰ-7,Ⅱ-1・2,Ⅱ-3）のイメージ比較を次ページに示す。



凡例

記号	名称	備考
	町並み保存地区周辺地区	
	伝統的建造物群保存地区	
	Ⅰ. 整備イメージに沿って景観舗装が整備されている路線	
	Ⅱ. 主要な観光ルート等に位置付けられている路線	
	Ⅲ. 水道・下水道事業の範囲に含まれる生活に必要な路線	
	Ⅳ. その他の路線等	

図面番号	縮尺	S=1:2000
作業名	町並み保存地区周辺地区景観舗装整備方針検討業務	
種別	路線位置図	番号
施設名	竹原市 本町 地内	
工事箇所	竹原市 本町 地内	
設計年月日	2024.08.28	

現況

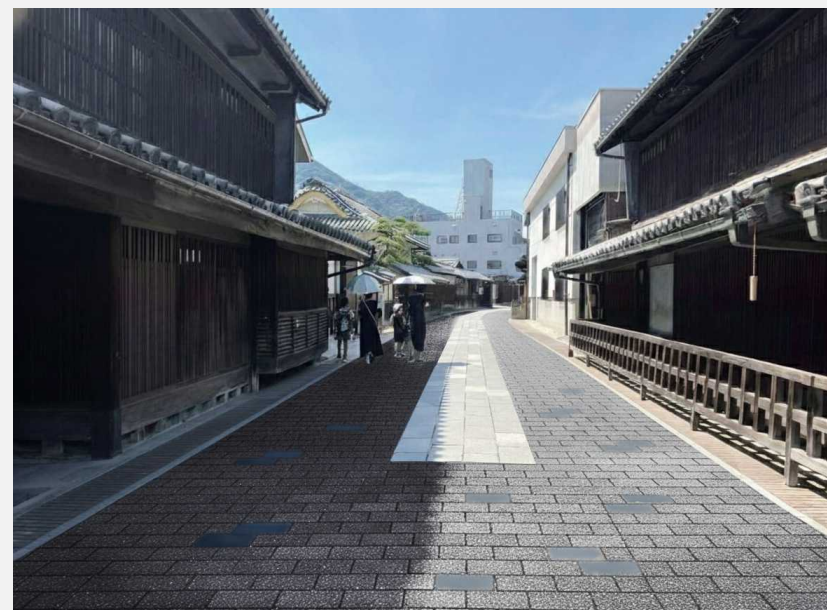


整備後イメージ



I-1

御影石を4列に縮小+インター
ロッキングブロック間にレンガ
(再利用)をランダムに配置



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

現況



I-5

整備後イメージ



I-7



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

現況



整備後イメージ



II-1・2

中央3列は御影石風ILB、
その他は黒レンガ風ILB

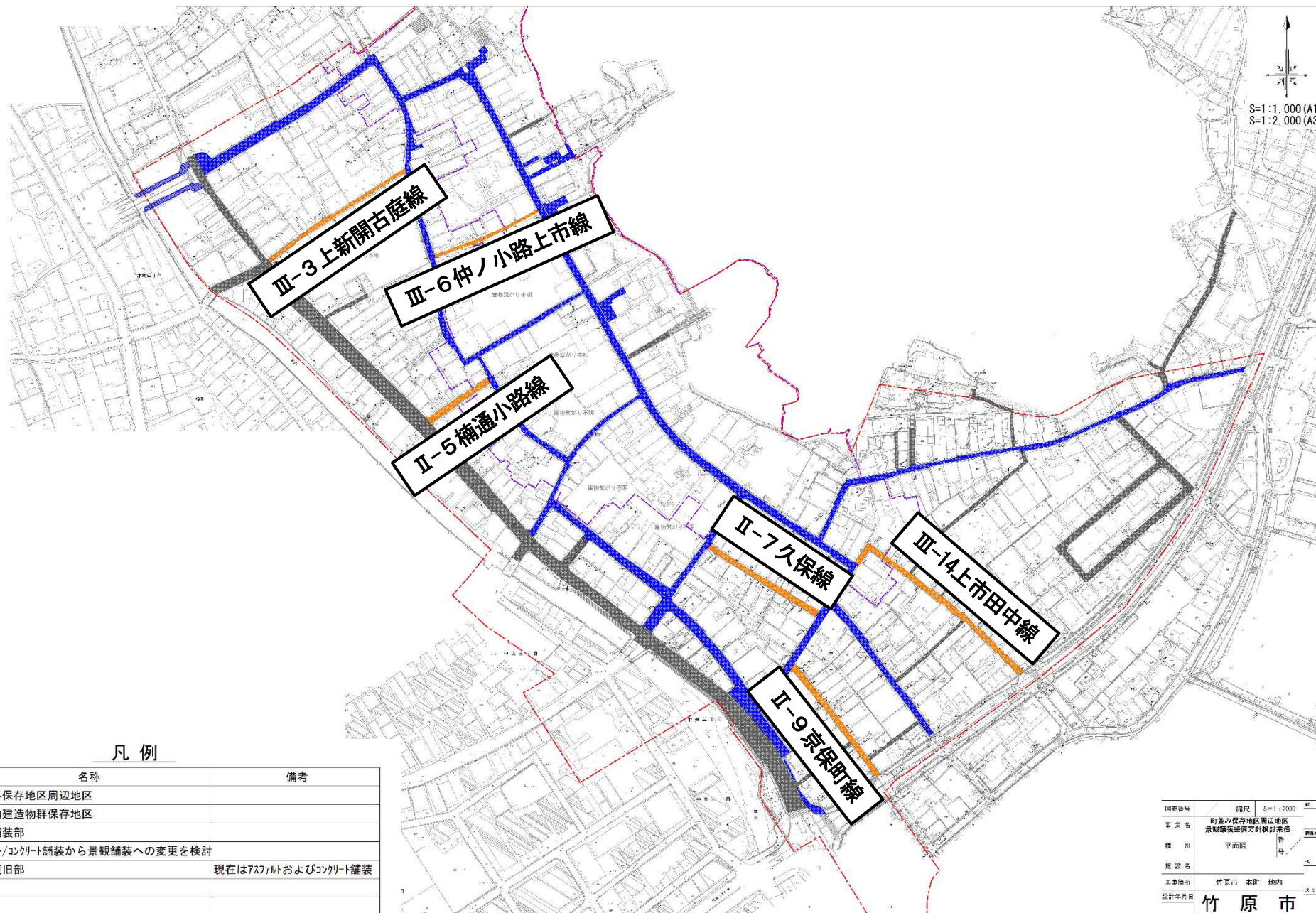


備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

	現況	整備後イメージ
II-3		
備考		画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

- ◇ 既存の景観舗装部(青着色部分)は、継続して景観に配慮した舗装とする。
- ◇ 下水道・水道工事による舗装契機として、現在の歴史的な建物の立地状況や、住民・観光客等の利用状況を踏まえ、III-3上新開古庭線・III-6仲ノ小路上市線・II-5楠通小路線・II-7久保線・II-9京保町線・III-14上市田中線の6路線(橙着色部分、いずれも現在はアスファルト・コンクリート舗装)を景観に配慮した舗装とすることを検討中。 (イメージ比較を次ページに示す)



凡例

記号	名称	備考
	町並み保存地区周辺地区	
	伝統的建造物群保存地区	
	景観舗装部	
	アスファルト/コンクリート舗装から景観舗装への変更を検討	
	現況復旧部	現在はアスファルトおよびコンクリート舗装

図面番号	縮尺	S=1:2,000 (A3)
事業名	町並み保存地区周辺地区 景観舗装整備方針検討書	
種別	平面図	
施設名		
工事箇所	竹原市 本町 地内	
設計年月日	竹原市	

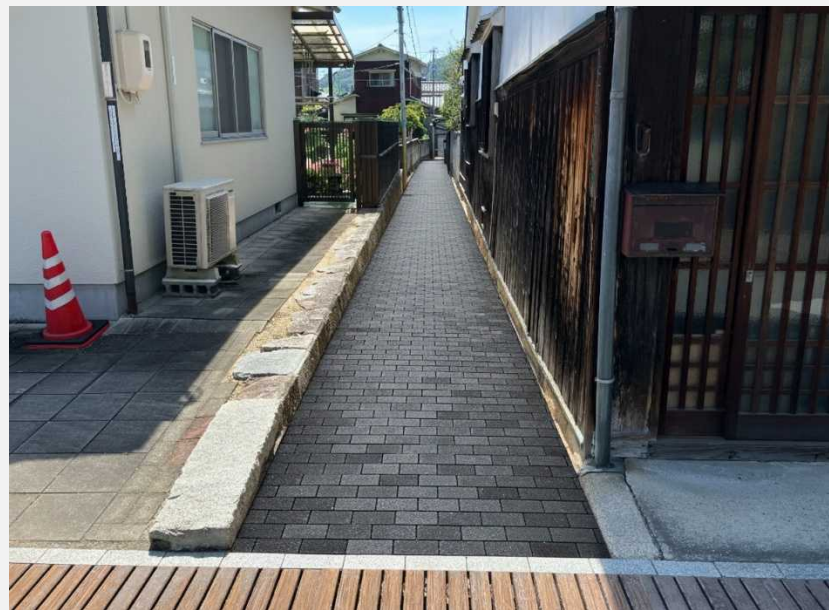
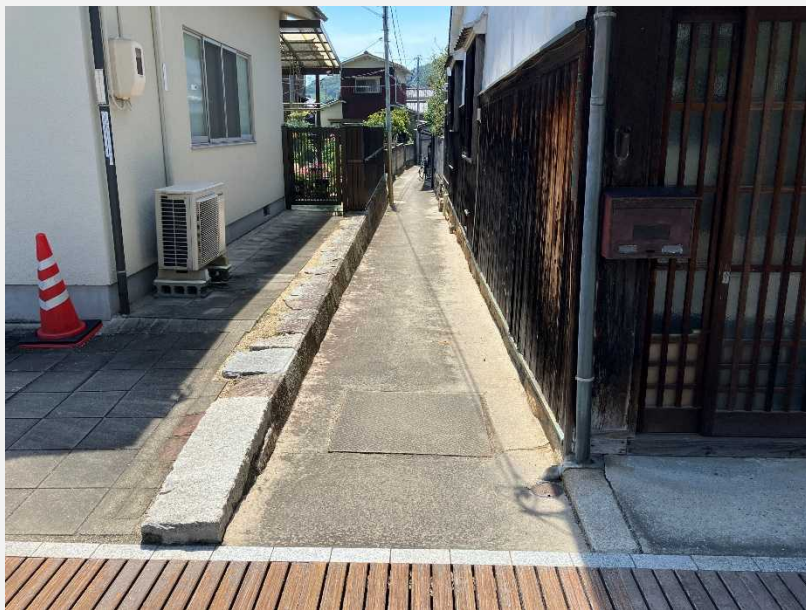
現況

整備後イメージ

III-3
上新開古庭線



III-6
仲ノ小路
上市線



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

現況

整備後イメージ

II-7
久保線



II-5
楠通小路線



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

整備後イメージ



II-5
楠通小路線

御影石の配置
4パターン



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

現況

整備後イメージ

II-9
京保町線



III-14
上市田中線



備考

画像はイメージです。ブロックのサイズは、実際のサイズと異なります。

◇竹原市ホームページ及び竹原市全域回覧にて、**景観舗装の復旧方法に関する意見を募集した。**
 【実施方法】 電話・電子メール等で意見を募集 【実施期間】 令和8年1月27日～令和8年2月28日

周知方法

<竹原市HP>



くらし・手続き | 医療・健康・福祉 | 子育て・教育 | 観光・文化・スポーツ | しごと・産業

現在の位置 [ホーム](#) > [組織から探す](#) > [都市整備課](#) > [町並み保存地区周辺地区景観舗装の復旧方法についての検討状況](#)

町並み保存地区周辺地区景観舗装の復旧方法についての検討状況

更新日：2026年01月27日
 ページID：8147

景観舗装の復旧方法について

本市では、町並み保存地区や周辺地区で下水道事業・水道事業等の工事を進めており、景観の観点と今後の整備や維持に係る費用の縮減を考慮した舗装の復旧を検討しています。

[景観舗装の復旧方法について \(PDFファイル: 1013.8KB\)](#)

※ご意見がある方は下記連絡先に電話・電子メール等を令和8年2月末までをお願いします。

竹原市建設部都市整備課
 都市計画係：担当（景山・小林）
 電話番号：0846-22-7749
 ファックス：0846-22-1113
 MAIL：toshi@city.takehara.lg.jp

<竹原市HP・竹原市内全域回覧>

町並み保存地区周辺地区
 景観舗装の復旧方法について

目的・背景

本市では、町並み保存地区や周辺地区で下水道事業・水道事業等の工事を進めており、景観の観点と今後の整備や維持に係る費用の縮減を考慮した舗装の復旧を検討しています。

現在は以下のような復旧方法を考えています。



整備の方針

- 方針① 歴史ある町並みと調和した街路の整備を目指し、現在の竹原らしい景観を継承する。
- 方針② 耐久性・安全性等を考慮するとともに、舗装の再整備・維持修繕に係るコストの縮減を図る。
- 方針③ 舗装の改修が必要な範囲と住民の生活に配慮した施工方法・工事工程の検討。

現状の舗装の劣化・破損状況



御影石のひび割れ・摩耗・剥離

黒レンガのひび割れ・摩耗・ぐらつき

整備方針の現状

現時点では、竹原らしい景観を継承しつつ、御影石を一部再利用し、**車両対応で耐久性があり、すべりにくい、現況に近い風合のインターロッキングブロックを用いる案**で検討を進めているところです。

今後、関係機関と協議を行い、住民説明会で意見を伺った後、整備方針を策定します。

※ご意見がある方は下記連絡先に電話・電子メール等を令和8年2月末までをお願いします。

竹原市建設部都市整備課
 都市計画係：担当（景山・小林）
 TEL:0846-22-7749 FAX:0846-22-1113
 MAIL:toshi@city.takehara.lg.jp

◇住民意見は合計3件の返答があった。意見の内容とそれらに対する回答は以下のとおりである。

	住民意見（内容を要約・抜粋）	事務局の考え
景観	<p>下水道工事後の舗装は<u>インターロッキングブロックではなく、土に近い茶色のアスファルト</u>してほしい。黒いアスファルトや現状の御影石・黒レンガは景観に合わない・滑りやすいなどの理由で反対。現在の御影石・黒レンガは過去に例がなく「竹原らしい」とは思えない。観光地らしさはあるかもしれないが、町の本来の景観にはそぐわないと感じている。</p>	<p>真砂土系舗装（茶色のアスファルト）による復旧について、整備イメージを作成し、<u>景観的な特徴だけでなく、舗装の構造的な特徴も踏まえた比較検討の結果、御影石舗装や黒レンガ舗装による現在の景観イメージを採用</u>することとした。</p> <p>また、<u>市民が残したいと思う現存する歴史的な町並みとして一定の評価を得ており</u>、ほかに事例がない唯一の景観として価値があると認識している。</p>
安全性	<p>工事後は、町並み保存地区に指定されている範囲だけ石畳を復旧し、<u>保存地区指定外は通常の道路舗装にして、保存地区と周辺住宅エリアを明確に区分</u>してほしい。</p> <p>石畳の場所に白線や路面表示がなく、標識だけでは分かりにくい。速度超過、一時停止無視、路上駐車などの迷惑行為が横行している。<u>保存地区の景観を損なわない範囲で道路の安全対策（路面表示、区分表示やハンプ(速度抑制段差)など）を同時に実施</u>してほしい。</p> <p>観光客の車による保存地区への侵入禁止については、以前から要望しているが対応されていないため、改めて検討してほしい。</p>	<p>現状は町並み保存地区に指定されているエリア外も景観舗装（石畳舗装）となっており、今回の検討においても同様に、<u>歴史的な観光地で人を周遊させることも目的のひとつとして、町並み保存地区の周辺も景観舗装とすることを想定</u>している。</p> <p>法定速度の超過や一時停止の無視、路上駐車など、違反行為を行う車両に関する対策は、警察が担当であるが、<u>景観に配慮する必要があることから、警察と都市整備課で協議が必要であると認識</u>している。</p>
側溝	<p><u>側溝の木製蓋が重すぎて、掃除などのメンテナンスがしづらい</u>。見栄えは町並みに馴染んで良いと感じているが、路面復旧の際に、この点を考慮して改修してほしい。</p>	<p>現時点で木製蓋の劣化はあまり確認できないことから、本検討では対象としていないが、<u>縁石のぐらつきによる取り外しにくさについては整備方法を検討</u>している。</p> <p><u>木製蓋を改修するタイミングで参考にさせていただく</u>。</p>
その他	<p>町並み保存地区で、<u>道路が建物の土台より高くなっている箇所があり、雨水が土台を濡らしている</u>。木造建物に悪影響があるため、復旧の際にこの点を考慮してほしい。</p>	<p>道路の両サイドに側溝を設置しているため道路の雨水が土台に影響している可能性は低いが、<u>雨天時の滑りや経年劣化、メンテナンス性を加味してインターロッキング舗装を採用しつつ、一部に従来の自然石をすることで、景観に配置しつつ課題を解決する方向性で検討を進めている</u>。</p>

検 討 項 目	令和7年度									令和8年度								
	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
景観舗装整備方針の検討																		
住民意見募集																		
景観審議会																		
伝統的建造物群保存地区保存審議会																		
住民説明会																		
景観舗装整備方針の作成																		